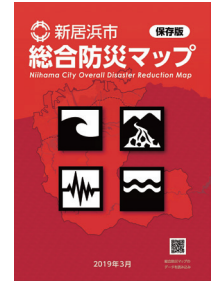




台風シーズン到来

水害から命を守る行動を

西日本豪雨をはじめ、近年、全国各地で台風やゲリラ豪雨などによる災害が多発しています。本市でも平成16年、相次いで襲来した台風による豪雨で甚大な被害を受けました。いざという時、どうすればいいのか。迅速に判断し、命を守る行動ができるよう、日頃から備えておくことが大事です。



総合防災マップ
はこちら

まずは基本！こんな行動はやめましょう

気になるからと、以下のような行動をしていませんか？
危険なので絶対にやめましょう。

✖ 激しい雨風の中を外出

雨風が激しいときは、弱くなるまで外に出ないようにしましょう。特に、雨漏りやアンテナの確認のために屋根に上ったり、田んぼの様子を見に行ったりしないでください。

✖ 河川や水路を見に行く

雨が降っていないくても、河川や水路が増水しているときは、近付かないようにしましょう。河川の上流で豪雨や長雨が続けている場合は、急な増水もあるので十分注意してください。

ライブカメラで確認を！

水位の状況がリアルタイムで分かる河川監視カメラ画像を市のHPやLINEから確認できます。気になるときはこちらをチェック！



自らの判断で最善の安全確保行動を

災害発生の恐れがある場合、市から避難情報（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保）を発令します。下表を参考に、「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、自ら避難の判断をしましょう。
※昨年5月、避難情報の表現が変わりました。避難勧告は廃止され、避難指示に一本化されました。

地域内で避難を迷っている人がいれば、声掛けをしましょう！

警戒レベルと
避難情報は
こちら



警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警報など(気象庁などの情報)
5	命の危険 ただちに安全確保！ すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所よりも安全な場所へただちに移動する	緊急安全確保	大雨特別警報

警戒レベル4までに必ず避難！！

4	危険な場所から全員避難 台風などにより暴風が吹き始める前に避難を完了しておく	避難指示	土砂災害警戒情報
3	危険な場所から高齢者などは避難 高齢者など以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難したりする	高齢者等避難	大雨警報※、洪水警報
2	自らの避難行動を確認 ハザードマップなどにより、自宅などの災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認する など		大雨注意報、洪水注意報
1	災害への心構えを高める		早期注意情報(警報級の可能性)

※夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3に相当します。

避難にまつわる「こんなとき、どうする？」

いざ避難！ …と言っても、一体どこに行けばいいのだろう。避難するときに注意しないとイケないことは？ 避難にまつわる疑問に答えます。



Q 避難行動って、何をすればいいの？

A 公民館や小中学校に行くことだけが避難ではありません。避難とは、「難」を「避」けること。**4つの行動**があります。



避難行動の基本はこちら

立ち退き避難

(危険な地区から安全な地区への移動。水平避難)

01 行政が指定した避難場所・避難所への立ち退き避難

準備している非常持ち出し品、衛生用品などを持っていきましょう。

02 安全なホテル・旅館への立ち退き避難

通常の宿泊料*が必要です。事前に予約・確認しましょう。

※新型コロナ対策として、**避難情報が発令された地域に住む人が市内のホテル・旅館などに避難した場合、補助金を交付します。**

03 安全な親戚・知人宅への立ち退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

屋内安全確保

(自宅2階などへの移動。垂直避難)

04 屋内安全確保

ハザードマップで、以下の4つの条件をチェックし、自宅にいても大丈夫か確認しましょう。

4つの条件

- 土砂災害特別警戒区域に入っていない
- 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
区域内だと家屋の倒壊や崩落の恐れも！
- 浸水深よりも住んでいる部屋が高い
- 水が引くまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分

Q 避難所っていつ開設されるの？

A 市が警戒レベル3（高齢者等避難）以上の避難情報を発令した場合などに開設されます。

Q 避難する前にしておくことは？

A 電気やガスの火元を確認しましょう。また、親戚や知人に避難することを連絡しておきましょう。



避難するとき、気を付けることは？



明るいうちに避難を

暗くなってから、大雨の中で避難することは危険です。正確な情報を入手し、早めに判断し、明るいうちから行動しましょう。

冠水した道は危険

冠水した道は歩かないようにしましょう。マンホールのふたが外れているなど危険箇所が多い上、それらが見えないため、十分な注意が必要です。やむを得ない場合は、杖などの棒で足元を確認するなど慎重に歩きましょう。



車での移動は控えて

車での避難はなるべく控え、徒歩で移動しましょう。渋滞が発生するほか、浸水で故障したり、緊急車両の妨げとなったりする場合があります。

長靴は避けよう

雨が降ると選びがちな長靴ですが、避難には不向き。水が入って重くなり、動きづらくなる可能性があるため、履き慣れたスニーカーなどで避難するようにしましょう。



避難所での新型コロナ対策は？



避難所に多く人が集まることで、新型コロナの感染が拡大するリスクがあります。避難所の3密（密閉・密集・密接）を防ぐため、在宅避難や安全な親戚・知人宅への避難なども考えてみましょう。

避難所に避難する際は、マスクを着用するなど、感染リスクに十分配慮しましょう。また避難所内での接触機会を減らすため、台風などの一時避難の際には、食料など必要な物資は各自であらかじめ確保した上で避難してください。



情報はどこで入手すればいいの？



ラジオやSNSなどで確認できます。落ち着いて、**正確な情報**を手に入れるようにしましょう。

防災ラジオ

災害発生時などに自動で電源がつき、大音量で緊急放送が流れます。購入補助(令和4年度で終了)もありますので、ご活用ください。

※周辺の建物や建物の構造などにより受信に弱い場合があります。



LINE

友だち登録しておけば、災害情報が配信されるほか、防災タブで避難場所や降雨情報などが確認できます。



メールマガジン

携帯電話（パソコン）のメールアドレスを登録すれば、市の情報がリアルタイムで届きます。



SNS



防災行政無線

聞き逃したり、放送内容が聞き取れなかったりした場合は、直近の放送から24時間以内の内容を自動音声で確認できます。放送内容はHPにも掲載しています。

災害来るな 新居浜

☎ 050 - 3797 - 2180

※通話料がかかります。



事前に準備しておこう

✓ 非常持ち出し品の用意

緊急に避難しなければならない場合に備え、避難時に持ち出す最低限のものはリュックに入れて、すぐに持ち出せる場所に用意しておきましょう。**目安は男性15kg、女性10kg**。まず、**なければ困るもの**、次に、**あれば便利なもの**を用意しましょう。

✓ 安全な避難経路の確認

ハザードマップで、事前に避難ルートを確認しておきましょう。

ハザードマップはこちら



✓ 家庭内備蓄

大規模災害が発生した場合、物流やライフラインがストップしたり、救援物資がすぐに届かなかったりする恐れがあります。**最低3日分（できれば7日分）×家族の人数分**を準備しましょう。

日常生活の中で使うものを**多めに買い置きし**、消費しながら**買い足していく**「ローリングストック法」なら、無理なく効率的に備蓄することができます。

また、トイレや洗濯などに使う生活用水も必要です。普段からポリタンクにくんでおいたり、風呂の湯をすぐに抜かないで活用したりする方法もあります。

非常持ち出し品リスト

衣類など

- 下着・上着
- タオル
- 洗面用具
- マスク

日用品など

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備電池
- 携帯電話
- 充電器
- 消毒液・除菌シート
- メガネ・コンタクト

食料品

- 飲料水
- 非常食

貴重品

- 預金通帳
- 印鑑
- 現金
- 保険証

女性の備え

- 生理用品
- サニタリーショーツ
- 防犯ブザー・ホイッスル
- 中身の見えないごみ袋

子どもへの備え

- ミルク（キューブタイプ）
- 使い捨てほ乳瓶
- 抱っこひも
- 離乳食
- 紙おむつ
- お尻拭き

高齢者がいる家庭

- 大人用紙おむつ
- 入れ歯・入れ歯用洗浄剤
- 補聴器

その他

- 常備薬
- 雨具
- お薬手帳
- 筆記用具・メモ



家庭での備えはこちら



最新システムで、防災意識を高めよう

防災センターでは、最新のシステムを使った体験学習ができます。水害が発生するメカニズムや避難の流れなどを学べるほか、大きなタッチパネルでハザードマップを操作し、自分が住む場所の危険を調べることができます。平成16年の被害箇所なども分かるので、自宅や職場の周辺が安全かどうか確認してみましょう。



◀ 防災センター HP



防災センター
野藤所長

10kgの重さを体感できるリュックもあります。ぜひ背負ってみてください。



リュックは背負って両手を使える状態にしましょう。